

## ねがいのいえニュース 第32号

生活支援ハウスねがいのいえ広報紙・2013年7月15日発行

発行責任者：藤本真二 〒331-0071 さいたま市西区高木185-29

Tel (048) 626-1909 Fax (048) 626-1920

E-mail negainoie@r6.dion.ne.jp Hp <http://www.negainoie.com>



すっかり真夏の暑さとなりましたが、意外に体調を崩す人が多かったこの1ヶ月、ねがいのいえは利用のキャンセルも続出でした。みなさま、お元気でしょうか。

懸案だった施設建設については、4月以降、行政との話し合いが滞ったこともあり、今後の方向を発表できずにおりましたが、ここへきて急転直下、国庫補助申請と社会福祉法人設立へ向けて動き出すことになりました。

### 社会福祉法人設立に向けて

ねがいのいえでは、身体的に重度な障害のみなさまが通える生活介護がこの地域に不足している現状に対応し、国庫補助を受けて生活介護施設を作ること目標に置いてきました。しかし今年度、近隣で同じ目標を掲げて施設建設を申請した団体が認可を受けることになりました。みなさまが希望されているニーズに他の団体が答えてくださるのなら、私たちが同じものを作る必要はなく、改めて利用者のみなさまから意向調査を取り直しました。そして上がってきたニーズは、重度障害の方が地域で暮らせるケアホーム、という要望でした。

幹部会議でスタッフの意思を確認し合い、時間がない中で土地の選定をし直し、各方面へ交渉をかけ、なんとかぎりぎりの日程で申請書を提出しようという運びになりました。目指すのは、医療的ケアも含めた最重度の障害を持つ方が、家族から自立して地域で暮らせるホーム。そして、医療的ケアの必要な人を対象にしたショートステイ。国庫補助を申請して建設し、同時に社会福祉法人の設立も目指します。

見つけた土地の条件が国の示す基準に合わないため、厳しい審査になると役所からは言われておりますが、だめならまた再チャレンジするのみ。この方向性で今後進んでいきますので、みなさまの応援をいただけたら幸いです。

### 医療的ケアネットの熱気

超重症化が著しい障害福祉の流れの中で、今、医療的ケアに取り組む事業者の熱気がすごい、と感じます。埼玉よりどころねつとの連続講座でもこの1年、素晴らしい実践家のお話をうかがいましたが、これまで長年の課題だった「医療と福祉の連携」が急速に発展していることに感動を覚え

ます。

福祉現場からは、呼吸器をつけている人でもレスパイトを可能にしている兵庫の国本さんが、「とにかくその人が、そこにおるということを大事にすねん」と笑いと感動のメッセージを発信しています。

医療側からは、重い障害のあるお子さんたちの在宅生活を支える、訪問診療の前田先生や高橋先生、訪問看護の梶原さんたちが発信され、若い医師や看護師の意識を変えつつあります。

そして、全国の障害福祉のリーダー、愛知の戸枝さんが前田先生とチームを組み、医療と福祉の連携を大きく進めました。命は助かったが生活を支える支援者がいない超重症の障害を負った人たちは、これまで、全国にわずかしきない支援者とたまたま出会った人しか支えられなかったけれど、戸枝さんの行動によって、誰もが支えられることがこれから日本全体のシステムになってゆく。まるで、天才たちが同時期に各地で改革を推進し歴史が回天した幕末のように、今、超重症者の福祉が大きく動き出そうとしています。

そしてねがいのいえは、今までと同じく、障害の重い人も軽い人も同様に受け入れるだけ。決して重い人だけが集まるのでもなく、障害のない子供たちが利用者のみなさんの間をよちよち歩くのもまた、ねがいのいえの在り方です。

そんな理想形が広がって欲しいと願い、地域の事業所を訪ね歩き、語り合う日々が続きます。



### 急増する事業者に思う

一方で、4年前からの報酬単価の大幅な上昇は、児童デイ急増を強力に推進しました。今や全国に増え続ける事業者は、特別支援学校に送迎車が入れない、という声も聞かれるほどになっています。戦後70年、障害者を抱えて困窮する家庭に一切の支援が提供されなかった国政の歴史の中で、とりわけ障害児を持つ家族がどれだけ苦しんできたかを思えば、今これほどまでに支援が届く時代になったことは、大変感慨深いことです。

しかし報酬単価の上昇は、質の低い事業者の参入という問題を必ず生むこともまた歴史の必然です。私たちは、利用者を大切にしない利益優先の対応をしていないか、いつも振り返らなければなりません。

また、長年の福祉感覚から脱却できない事業者にも出会います。誰でも事業参入できるようになった今、事業は運営ではなく経営であり、決められた補助金で経営できないのなら、方法に問題があると考えなければなりません。そこには、潜在するニーズに対応していない何らかの要因があるはずですが、そこに思い至らないまま、報酬をもっと上げて欲しい、家賃を補助して欲しい、など、旧来の要望を出し続ける声を今も耳にします。報酬が適正なレベルに達した今、経営できない事業者は淘汰されるのだという一般社会の常識を、私たちも持つ必要があると感じます。

そしてそのような事業者ほど、全国の最先端で活躍する先駆者のメッセージが届かない傾向があ

ります。児童デイも含め福祉サービスは、すべての障害に対応するものであり、うちは軽度な人のみ、うちは医療的ケアはやらない、などと決めるものではなく、これだけの報酬をもらう以上、どんな人も等しく支える義務があります。実力に不安があるなら、実力をつけるような努力もしなければなりません。

そして、出会った方々の潜在するニーズを探っていけば、放課後のデイサービスだけで終わるはずがないことに当然気づきます。気づいた以上は支えなければならぬ。それが事業者の心だと思います。

とはいえ、事業は成り立つもののスタッフの収入が低すぎるのは厳然たる事実です。全ての福祉職員の年収が今より100万円上がるような政策が必要ですが、それは報酬の改正というレベルの問題ではなく、財政構造から修正する国家的プロジェクトとして取り組んで欲しいと要望します。

## 本当の想いとは

当事者の想いを大切にす支援、とよく言われます。自分で発信できる方たちは、「私たちのことを私たち抜きに決めないで」と長年訴えてきました。そのみんなの願いと行動が結実し現在の仕組みが出来あがりしましたが、私たちが支援するみなさまは、自分で想いを語れる人ばかりではありません。重度の知的障害の方たちは、家族や支援者がこうであろうと推測する想いに沿う援助をしているのが現実です。

ひとりひとりの想いを大切にす支援に長年取り組んできた人たちは、本人を困らせて支援者が寄ってたかって想いを語りつくし、その中からその人の方向性を探っていくのだとおっしゃり、話せない人たちの支援にひとつの方向性を示しています。

ひとりの当事者のまわりに大勢の関係者が集まってくるほど成熟していないこの地域では、家族からの依頼のみに基づいて事業者がサービスを提供しているのが現実です。

そんな日々の中で、家族から依頼された要望が、本人の希望に沿っているのか、本当は違う想いを持っているのではないかと感じることは多々あります。ご家族は、お子さんが街へ出て問題を起こすのを避けて欲しい、という想いがあり、新しい体験や人が集まるところへ積極的に出かけるのを避けたいという傾向があります。たしかに、知らないところへ行けば、不安や緊張でパニックになったり、うまく行動できないことはあると思います。



ない人生を送らせるのは、専門家として失格だと考えます。

しかし、新しい体験をしたい、違う楽しみを見つけたい、という想いは本人の中に必ずあると私たちは信じています。たとえ問題が起きても、繰り返し経験を重ねるうちに、新しい体験も慣れた体験に変わってゆき、問題は乗り越えられる。その経験を積み重ねることが、その人の豊かな人生につながってゆくのだと信じていますので、ご家族の声に反した意見も伝えることがあります。安全を最優先してつまら



## 心のケア これから

障害のある人はスケジュールがわからないと落ち着かないとか、同じパターンを崩さない方がいい、などと言われますが、心のケアであらゆる問題に対応してきたねがいのいえには、絵カードもスケジュール表もなく、アドリブでその時に思いついた一番の楽しみを体験しながら、毎日を過ごしてきました。もちろん作業場面では視覚化やパターン化は有効であり、ねがいのいえでも就労部門では取り入れています。社会生活とはイレギュラーの連続の中で生きることであり、余暇支援や生活支援ではむしろパターン化は捨てる方向性が大事であると考えます。

ほとんどの人がスタッフとの関わりを通して落ち着きを取り戻しますが、しかし私たちが解決できるのは、私たちとの関わりの中で起きた問題であり、学校や家庭や他の施設で起きた問題の原因を取り除き解決することは、私たちにはもちろん出来ません。

私たちが目指すのは、問題を消し去ることではなく、問題を抱えたまま生きる人たちの、心に寄り添い、心を支えることです。

しかしその心のケアの関わりを持ってしても、知的障害に精神症状を重ねる人たちのケアは段違いに難しく、世界にもまだ明らかな成功マニュアルのない領域です。そんな難しい人たちに何をしたらいいのかを、多くの文献に当たり、たくさんの研修にも参加し、考え続けてきました。

脳を解剖生理学的、また機能的にとらえれば、構造化やコミュニケーション技術のアプローチになりますが、脳にはそれだけではとらえきれない精神世界や潜在意識の領域があり、それは知的障害の方にも必ずあります。その領域へのアプローチとしてあるひとつの仮説にたどり着き、昨年の秋からセラピーとして取り組んできました。そして今、ある程度の成果を見せ始め、区分6の行動障害の人たちが驚くほど落ち着いてきました。

キーワードは「潜在意識の鎮静化」と言っていかもしれません。

この10年、心のケアの考え方と関わり方をお伝えする基礎研修を続けてきましたが、さらにひとつひとつの技術を深められるよう、昨年はステップアップ研修を実施しました。今年はさらにその上のサードステップ研修を企画していますが、この新しいメソッドについてはその中でお伝えしたいと思っています。興味のある方はぜひ参加してください。



埼玉よりどころねっとの活動から広がった地域の仲間の輪は、全国の仲間との交流に広がり、訪問と視察を続ける毎日の中で、互いに刺激し合い、アイデアが広がり、事業展開も急速に動き始めました。そんな多忙の中で、思うことが多すぎて、今回はとりとめない随想のようになりました。

冒頭お伝えしたように、今後ねがいのいえは、国庫補助を申請し大きな展開に動いていきますので、みなさまからなお一層のご協力が必要になるかもしれません。今後とも応援よろしくお願います。